

衆院解散

8月18日公示、30日投票

衆院は二十一日午後の本会議で解散された。総選挙は「八月十八日公示―三十日投票」の日程で実施される。衆院解散は二〇〇五年八月の「郵政解散」以来約四年ぶり。自民、公明両党の連立政権の継続か、民主党を中心とした新政権の誕生か。歴史的な政権選択選挙がスタートした。

麻生太郎首相が解散を先送りしてきたため、衆院議員の任期満了（九月十日）を目前にした事実上の任期満了選挙となった。解散から投票までの日数は、現行憲法下で最長の四十日間。八月の衆院選は戦後初めて。

首相は選挙戦で、安全保障分野や財源論で民主党の政権担当能力を問う構えだが、内閣支持率が低迷する中、与党は厳しい戦いが予想される。一方、民主党は、官僚主導政治からの脱却や税金の無駄遣い解消などを掲げて政権交代の必要性を訴える。

2009年7月21日発行